

## 大糸線利用促進輸送強化期成同盟会 第6回振興部会 会議録（要旨）

日 時	令和6年7月12日（金） 午後1時30分から（終了：3時30分）	
場 所	大町市役所 西庁舎2階 西会議室（オンライン併用）	
出 席 者	部会員 20名／28名、JR西日本金沢支社 3名（オブザーバー）、事務局	
会議内容 〔資料〕	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 次第／委員名簿</li><li>▶ 協議事項<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 令和6年度 大糸線の利用促進・利便性向上策について<ul style="list-style-type: none"><li>①取組事業の年間スケジュール／目標値について … <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></li><li>②大糸線の利用促進に係る取組強化期間の設定について … <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></li></ul></li><li>▶ 報告事項<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 大糸線プロモーション事業について（同盟会実施事業） … <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span></li><li>(2) JR西日本が取り組む利用促進事業について … <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span></li><li>(3) その他</li></ul></li></ul></li></ul>	

### ■部会長あいさつ（糸魚川市 内山部会長）

前任の五十嵐に代わり部会長を務めさせていただく。

3月16日に北陸新幹線の金沢ー敦賀間が開業した。北陸・関西方面からの移動距離が近くなり、この効果を最大限活かして多くの方に当地域へ訪れていただけるよう、大糸線の利用促進に繋げていきたい。

3月14日に開催された第5回振興部会では、敦賀開業を見据えた大糸線の振興策について、沿線一体となった本格的な利用促進に取り組むことのご賛同を得た。

北陸新幹線敦賀延伸の効果を逃すことなく、大糸線の利用促進、沿線地域への観光誘客に繋げられるよう、前向きな会議としたい。

### ■協議事項（進行：内山部会長）

#### (1) 令和6年度 大糸線の利用促進・利便性向上策について

##### ①取組事業の年間スケジュール／目標値について [説明：糸魚川市] … 資料1

- ▶ これまでの振興部会において、年間を通じて沿線一体となり事業を実施していくことを広くPRし、鉄道ネットワークを活かした効果的な誘客促進を図っていくとの方向性と、併せて実施団体の皆様には事業ごとに目標値を設定して取り組み、事業効果の検証を行い、次の事業を展開していくことについて確認がされている。
- ▶ 資料は、昨年度に引き続き年間スケジュールと、参加者数・利用者数の目標値について各団体から回答をいただき集約したもの。
- ▶ 今年度事業による大糸線利用者数の目標値は、60,295人を設定。

これら事業の進捗や目標値の達成状況等について、今後、照会をさせていただく。各団体においては取組事業を着実に進めていただきたい。

##### ②大糸線の利用促進に係る取組強化期間の設定について [説明：長野県] … 資料2

- ▶ 大糸線への観光客など利用者の増加が見込めるのは、これから夏以降のシーズンが本番。
- ▶ (資料中、具体的な内容の3点目について) 観光施設や宿泊施設等において、独自のサービスを組み合わせていただくこと等で、より効果のある取組に繋げていくことができればと思う。
- ▶ 沿線地域が更に活性化するためにも大糸線は必要な路線である。関係者が自分事としてこれまで以上に一丸となり利用促進に取り組むことが重要であることから、取組強化キャンペーン期間の設定について

提案させていただいた。

部会長：目標値の設定について、昨年度は1万人の目標設定を行い実績は7,000人であった。このような中でメディアも目標値は注目されるところ。今年度は本格的な利用促進として様々な取組を行うため昨年より高い目標としている。増便バスの利用として30,000人を含めた数値であるが、増便バスを別々にするのではなく、あくまでもプロモーション事業と一体となって取り組む利便性向上策としての増便バスであるため、本部会では全体で60,000人を目標とする形が良いと考える。

長野県から提案のあった取組強化期間の設定に関しては、各団体が様々な取組を行うが、沿線一体で取り組む一体感を醸成するための期間を設けて取り組むことが必要であると考え、夏休みや秋のシーズンに集中的に取り組むことを提案いただいた内容である。夏の集中期間はイベントやプロモーション事業等々が重なり、秋の期間は人々行楽でお客さんが増える時期に今回のプロモーション事業や大町市だと国際芸術祭も開催される。各地域で行われるイベントも大糸線と連携するなど、地域のお力添えもいただきたい。

#### 《質疑・意見等》

なし。

※目標設定及び取組強化期間の設定について承認。

#### ■報告事項

##### (1) 大糸線プロモーション事業について（同盟会実施事業） … 資料3

○概要説明 [説明：大町市]

○詳細説明 [説明：長野県観光部]

###### ▶ 大糸線特設サイト開設

- ・「列車の移動価値」をサイト内でどれだけ表現できるか。JRの取材許可もいただき実際に列車に乗車して撮影した写真やビジュアルを多く掲載していく。動画も作成しており、実際に大糸線のイメージが湧くようなサイトを目指している。
- ・PC画面は動画と写真で空気感をしっかりと伝えられるようなトップ画面を想定。
- ・スマートフォンの利用が圧倒的に多いため、PCよりスマートフォンに最適なサイトとしている。
- ・スマートフォンは縦長のスクロールのため、大糸線の路線と合わせた紹介は非常に相性が良い。大糸線の特徴がしっかりと出るように訴求していきたい。

###### ▶ 着地型旅行商品

- ・大糸線を利用してもらうことが最大の主眼点。乗り継ぎと結節点となる駅を起点とし、大糸線と周辺観光をセットにした商品企画を検討。
- ・半日くらいで回れるプランとし、沿線の宿泊地へ繋げていく。
- ・この事業による旅行商品のほか、各地域で取り組む着地型商品があれば併せて特設サイトへ掲載したい。については、サイトへの掲載を希望する着地型旅行商品があれば情報を提供いただきますようお願いする。【資料3最終ページ「大糸線特設サイトへの各団体等の着地型商品の掲載について」参照】

###### ▶ 大糸線謎解きイベント

- ・謎解き市場は500～600億、これに関連したカードゲーム市場は2,800億と非常に盛り上がっている。
- ・今まで大糸線を利用したことがないユーザーへも、謎解きを通じて大糸線の魅力を知っていただく。
- ・このイベントは即効性があり、大糸線の利用者増加に直結するものと考えている。
- ・駅から降り周辺で謎解きをするパターンもあるが、やはり大糸線はダイヤの関係から難しく途中離脱の可能性も高いことから、列車に乗りながらゲームを進められる設計。
- ・謎解きのスタート地点は、松本駅または糸魚川駅の2か所を設定。どちらから始めても同じ物語体験ができる仕掛け。

- ・デジタルとアナログを組み合わせた物語の設計であり、これによりユーザーの満足度は高まる。
- ・キットの配布場所は、スタート地点の両駅改札に直結した観光案内所が重要な配布ポイントであると考えている。また、地元利用も重要視し沿線の観光案内所でも配布を予定。観光協会の皆様のご協力をお願いしたい。

▶ **広告・PR 宣伝計画**

- ・交通広告に関しては、JR西及びJR東に全面的にご協力いただき感謝している。
- ・京阪神や金沢エリア、北陸新幹線沿いの主要駅へのチラシ・ポスター広告や、糸魚川駅へのデジタルサイネージ広告、えちごトキめき鉄道の車内広告等のほか、大糸線を走る全車両へのポスター広告を3か月間実施し、視覚効果を狙っていく。
- ・利用者人数の多い松本駅には、4×5mのバトン広告を2か月間掲出する。

《質疑・意見等》

新潟県：大糸線の魅力は沿線の観光の魅力も勿論あるが、大糸線に乗ったときの景色や絶景が魅力であるし、利用者にとっても観光とはまた違った楽しみになる。特設サイトを開設するのであれば観光情報だけでなく、列車から見える景色や絶景の部分を、できれば季節も変えて載せていただければ魅力的なサイトになるのではと思う。

もう一点、着地型旅行商品に関して8月中旬に発売予定とあるが、期間はどのくらいを想定するか。

長野県観光部：ひとつ目の要望については、まさにこのサイトの肝になる部分。いかに列車による移動価値を伝えていくか。姫川や仁科三湖など景色にグラデーションがある。制作会社ともそこを大事にするよう調整している。季節を変えて掲載していくことはできるだけ実現できるよう進めたい。

着地商品の販売期間については、結果のフィードバックを示していく必要があるため、年内を目途として設計をしている。

**(2) JR西日本が取り組む利用促進事業について** [説明：JR西日本金沢支社] … 資料4

大糸線の未来に目を向けていただき、地域の皆様とともに目線を合わせて進められることに感謝します。

▶ **利便性向上事業（1P）**

- ・増便バスについては、大糸線活性化協議会の事業として推進させていただいている。
- ・弊社の検索サイト「WESTER」やインターネットサイト「おでかけネット」のほか、グーグルなど一般的のサイトにおいて検索していただいても増便バスの詳細がご案内できるように取り組んでおり、引き続き周知に努めていく。

▶ **デジタルチケットの造成（3P）**

- ・弊社が提供するMaaSアプリの中で、糸魚川-白馬間を2日間乗り放題となるデジタルチケット「糸魚川・白馬 tabiwa パス」を造成し販売している。

▶ **プロモーション（5～9P）**

- ・西Navi及び西Navi北陸にて、白馬・小谷の観光素材を大々的に扱わせていただいた。現地取材に関しては沿線関係者の皆様のご支援に感謝を申し上げたい。
- ・京阪神エリアの列車内モニターにおける動画広告や、弊社の主要駅におけるポスター掲出、デジタルサイネージを活用したPR、加えて東京メトロ丸の内線の中吊り広告や駅構内のデジタルサイネージでPRさせていただいている。
- ・同盟会の新規事業などに関しても、大糸線車内、増便バス車内はもちろん弊社の媒体を活用したPRに最大限の協力をさせていただく。

(補足)

今回の取組に関しては、バス増便事業も含め国の再構築調査事業として国の補助を活用させていただきながら、国や沿線自治体及び事業者が一体となってコミットし、持続可能な路線としての方策を一定

期間内に取りまとめる、その過程として実施しているという認識である。

弊社としても北陸新幹線の敦賀開業を最大の契機と捉え、この1年間、より多くのお客様にお越しただけるようにとの思いから、かつてないPR事業を実施させていただいている。私どもも相当な覚悟と熱量を持って取り組んでいるため、本日お集まりの皆様方も同じように取り組んでいただきたい。まだ大糸線を自分事としきれていない等、そのような方がもしいらっしゃれば残念である。今回、ここまで材料を我々が用意できるのは地域が望んでいることであり、これが実を結ぶためには同じ熱量で取り組ませていただければと思う。敦賀開業の年は今年しかない。関係者が一体となり本格的な取組に最大限努めることができればと考えているため、引き続きご支援・ご理解をお願いしたい。

#### 《質疑・意見等》

部会長：JR西の旅行商品の販売は既に開始されていると思うが、現在の状況はどうか。

JR西：正直に申すとあまり芳しくない状況。相当なPRを実施し、鉄道+宿泊をかなりお得な金額で設定しているが、これからグリーンシーズンであることを考えると間もなくトップシーズンに入るため、まだ余裕があると考えている。

部会長：一体となったプロモーション事業はこれからであり、関西方面からのお客様は梅雨明け、グリーンシーズンの本格化、また、ウィンターシーズンを含めた中で期待できる部分もある。

新潟県：せっかくJR西の旅行商品がある中、沿線自治体、観光協会でSNS等のネットワークを活用し、例えばダイレクトメールを送るとか、県外のフォロワーがいるとか、そういったツールがあるのであればJR西の旅行商品を発信する等、そのような努力も必要であると感じる。

部会長：大糸線特設サイトでJR西の旅行商品とリンクすることは可能か。

長野県観光部：もちろんさせていただきたい。先ほどのバスの関係も非常に有効な情報である。

部会長：各団体のサイト等へもリンクできるような形で検討いただきたいと思うし、特設サイトとの連携もぜひお願いしたい。

新潟県：増便バスについて、直近の利用状況が分かれば教えていただきたい。

部会長：増便バスについては大糸線活性化協議会で実施しているため、後ほど私から説明する。

#### (3) その他

##### ○北アルプス地域振興局より取組紹介 … 資料別添

- ・「極上の絶景満喫デジタルスタンプラリー」を開催する。本日、プレスリリースする。
- ・イベントでは、北アルプス地域の大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村のおすすめスポットを周遊し楽しんでいただきながら、この地域での滞在日数を増加させ、これにより地域の観光消費額を増大させたい。
- ・大糸線に特化したカテゴリを別枠で用意。JR西及びJR東のご協力をいただき、大糸線だけの特別なコースとしており、大糸線の利用促進を図っていきたい。具体的には松本駅から糸魚川駅までの主要な8つの駅と増便バスを利用していただく。
- ・周知はSNSのほか、東京、名古屋、大阪の長野県事務所へのチラシ配布やポスター掲示により行う。特に名古屋事務所ではデジタルサイネージの活用も提案いただいているところ。
- ・大糸線と沿線の魅力を実感していただく機会となるよう期待している。
- ・今後、皆様へもチラシやポスターを送付させていただく予定のため、周知にご協力をお願いしたい。また、JR西においてもこの事業のPRをお願いできればと思う。

##### ○小谷村（小谷村大糸線振興会議）の取組紹介 … 資料別添

- ・「駅メモ」は位置情報を活用したゲームアプリ。
- ・ゲーム内の女性キャラクターがゲームを彩っている。キャラクターは地域の名前を由来としており、糸魚川駅では「雪月花」を由来とした糸魚川せつかというキャラがいる。南小谷駅は南小谷れんげ。
- ・全国9,000か所以上ある駅を対象とした携帯内アプリと、マニュアルイベントとして現地へ行き参加

したら特典があるというような内容となっている。

#### 《質疑・意見等》

各団体の取組について、質疑等なし。

#### ○増便バスの利用実績について

部会長：6月は20日（木）～23日（日）に調査を実施。毎月4日間調査を行う。3連休がある月は日程を調整するが、大体、木・金・土・日に実施。アンケートの集計は出ていないが、数値だけ報告する。

調査は増便バスだけでなく列車の乗降調査も行い、バスは往復4便、鉄道は往復9便について実施。

##### ▶ バスと鉄道の合計値

・6/20（木）132人、6/21（金）171人、6/22（土）179人、6/23（日）124人…運休あり

増便バスは、あくまでもプロモーション事業を進めるにあたり利便性を高めるための事業である。敦賀が開業したため先行して実施しているが、プロモーションによりどう「乗り」に繋がっていくかを見ていきたい。なお、毎月の公表は行わない予定。

#### 《質疑・意見等》

JR西：この4日間の数値を公表するのであれば、速報値としてお願いしたい。また、公表は毎月ではなく節目などで確認していくことは同じ思いである。公表の仕方は皆様と相談していかなければ良い。

部会長：本来、毎月貰える調査データではなく、本日の振興部会のために我々で集計したデータのため速報値として取り扱う。

新潟県：途中下車や途中乗車はどのようにカウントしているのか。

部会長：単純に乗車人数をカウントしている。

新潟県：6/1から増便バスを開始しているが、増便前のデータはあるのか。増便したことで増えているのか。

糸魚川市：糸魚川駅で調査をしている。5月中に直営で調査を実施。比較はできていない。

部会長：糸魚川駅だけの調査であるが、今後、共有させていただく。

JR西：乗られた人の数という点では2022年12月23日に行われた第3回振興部会の中で、2022年の秋に全便乗込み調査をした数値を公表しているため、比較対象の一つになると思う。弊社で発表させていただいている輸送密度の方が数値は厳しめに見える。

増便バスについては運転手へのヒアリングも行っており、概ねの状況は日々報告をいただいているが、今後取り組んでいくプロモーション事業で盛り上げていく必要は間違いない。我々もグリーンシーズンに向け精一杯PRに努めていきたいし皆様のお力添えもいただきたい。

増便バスのルートやダイヤの見直しについてもあると思うが、お客様が次に多く来るのはスノーシーズンの12月。仮に12月からダイヤ等を見直すとなると10月上旬には時刻掲載の締め切りがあるため、9月中にはルートやダイヤを決めておく必要がある。そのためには8月中か9月上旬には一定の振り返りが必要であることをご承知いただきたい。スノーシーズンは白馬駅前が大変混雑するため、増便バスが進入できないケースや降雪状況等から立ち寄るルートも安全確保の観点から難しくなることが想定される。お客様のニーズを反映させながらバス事業者の意見や小谷・白馬の観光事業者の意見等も組み込みながら考えていきたい。快速タイプやルートを回遊させる等の案も意見としていただいているため、それについても協議をさせていただければと考えている。

部会長：バス増便事業の取組は全体の利便性向上として実施しているが、バス事業自体は大糸線活性化協議会で行っているため、これまでの運行実績等も含めて協議会で詰めさせていただきたい。

新潟県：輸送密度について、今回バスが4往復増便したということは、増便分が丸々トータルとして増えたという見方をしてよいのか。

JR西：分母はキロ(km)のため関係ない。

新潟県：結局増便をしても1日当たり、キロ当たりの利用は変わらないのか。

JR西：増便バスにより利用が増えれば輸送密度は高くなる。輸送密度は運んだ人数をキロで割った人数。本数が増えたから輸送密度が下がるというものでもない。

松本市：6/30（日）に松本から大糸線に乗り糸魚川まで行き、南小谷では丁度あずさと接続する便だったためかなり乗客がおり座席は一杯であった。糸魚川駅で南から来た増便バスを見ると結構降りてくる人もいて、南小谷側から糸魚川へ行くバスは乗る人が多いと感じた。鉄道についても南小谷から糸魚川へ行く人の方が若干多い。新幹線で来た人が糸魚川から大糸線に乗ると思っていたが逆であった。興味深いデータであったと感じる。

部会長：これから山の時期になればJR西区間は2両編成で運行することもある。人の動きはシーズンによってどちらから入ってくるかも変わってくる可能性があり、そういった部分も見ていければと思う。

JR西：取組を進めながら何とか多くのお客様にお越しいただき、大糸線の未来に目を向けていただけるような形にできれば良いと思う。一方で振興部会の目的の一つは、持続可能な路線としての方策の検討がある。この方策を一定の期間内で取りまとめるについては新潟・長野両県と弊社で協議し合意し、第5回振興部会の中でも皆様と共有させていただいていると認識している。第5回振興部会以降の進め方についても相談をさせていただいており、タイミングを見て三者での調整内容を関係する皆様と共有させていただく必要があると考えている。今年度の取組をしっかりと踏まえ、積み上がってくるデータとファクトが見えてくるため、未来志向で建設的な議論を我々としては少しでも早くお願いと考えているため、向き合っていただければと思う。

部会長：あり方の議論であるが、今年度はこれから利用促進に取り組んでいくため、三者協議の状況など見ながらということになろうかと思う。

## ■その他

### ○部会員の格上げについて

部会長：部会員格上げの検討については、格上げしてもあまり変わらないとの意見も出ていることや、既に会として利用促進も動き始めていることから、いま格上げはせず取組の推移を見ながら進めさせていただければと考えているが如何か。

長野県：利用促進に取り組もうとしている中で動いているが、今後のあり方議論を進めていくにあたっては、もう少し決定権のある者で議論をしなければ中々進めづらい。今すぐにでなくても、今後に向けて議論が必要ではないかと思う。

部会長：同時に進めることで会が前に進まなかった経過もある。そのような中で両県とJRが協議し、今年度の利用促進の取組となっている。今は利用促進の段階として進めているため、もう少しあり方議論の内容が詰まった段階で考えたい。振興部会で議論するのか又は別の組織という考え方もあるため、改めて整理させていただき提案をしていきたい。

### ○事務局から連絡事項

- ・本日ご説明をしたプロモーション事業については概ね了解を得られたと思うため、このあと16時を目安にプレスリリースをさせていただく。
- ・次回の振興部会については、同盟会として来年どのように進めていくか方向性を決めていく必要があると考えている。今年度事業も各自治体の負担金を大幅に増額し実施していることや、これから進めるプロモーション事業も少なくともグリーンシーズンを終えてどのような効果があったかなど見ながら、時期については秋口くらいかと思っているが、部会長等へも相談しながら設定していきたい。

## ■閉会（小谷村 太田副部会長）

増便バスが運行を開始し早1か月が経つ。これからプロモーション事業等が始まっていくが我々皆が協力して取り組んでいくことが大事である。ぜひ、皆さんで協力して取り組んでいただきたいと思う。